

## 令和8年度 調布市立柏野小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
◎考える子（友達と共に学び、自らの考えを深めていく児童「主体的に学ぶ力」） ○思いやりのある子（命の大切さを理解し、自他を大切にできる児童「人とかかわる力」） ○健康な子（自他で運動する楽しさや健康の大切さを実感するとともに、自らの身を守ろうとする児童「健康・安全に努める力」）	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像、教員像、児童・生徒像	
<b>「わくわくする学校」</b> ○児童が、自らの成長を感じ、生き生きと学べる学校 ○教職員が、自信とゆとりをもって、互いに高め合える学校 ○保護者や地域が、安心して任せられるとともに、すすんで関わりたくなる学校	
<b>ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)</b>	主な現状 ・学校生活に前向きに取り組もうとする児童は多い。一方で、学習や生活面で課題がある児童、登校渋りのある児童、特別な支援が必要な児童が各学年に一定数いる。  課題 ・児童が自ら見通しをもって、選択・決定できるなど主体的に学べる授業の実践（UDの視点） ・人とのかかわりを通して、自分の考えを深めるための協働的な学びの実践（ICTの活用、校内研究） ・読書に親しむ機会を充実し、読書に積極的に取り組む機会の創出（朝の時間や図書室の活用、家庭学習）

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
<b>国語</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を正しく読む力。</li> <li>・すすんで読書したり、文章を書いたりする力。</li> <li>・自分の思いや考えを自分の言葉で伝える力。</li> <li>・相手の思いや考えを正しく聞き取る力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の習熟を高めるために、家庭での漢字練習の仕方を指導し、定期的に漢字小テストを行い、習熟度を測る。</li> <li>・課題に対する自分の考えを持ち、友達と共有する機会を多く設定する。振り返りも含め、学びの記録となるノート・ワークシート指導を行う。</li> <li>・語彙を増やすために、教科書の文章や詩の音読、辞書を引く活動を日常的に行う。</li> <li>・作文の型や話型を提示するなどして、自分の思いや考えをすすんで表現することができるようにする。</li> </ul>
<b>社会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会、わが国の国土と歴史に対する課題を具体的に捉え、その解決に向けて根拠をもち、自分の考えを表現する力。</li> <li>・社会的事象について、資料や調査から得た情報を比較・関連付けながら整理し自分の考えを伝える力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会、わが国の国土と歴史についての学習問題を設定し、資料を用いて作品にまとめたり、図表に表したりする機会を設ける。</li> <li>・複数の資料を基に情報を比較・分類したり、総合したりして読み取る。また、主体的に考えたり、選択・判断したりして自分の考えを伝える指導も行う。</li> </ul>
<b>算数</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的な見方を通して、課題について多面的に考え、よりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き今後の生活や学習に活用したりしようとする力。</li> <li>・算数の問題について、数学的な見方・考え方を基に見通しをもって筋道を立てて考え、まとめたり、伝えたりする力。</li> <li>・数量や図形などについて理解し、計算したり作図したりする力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元により指導形態を工夫し、習熟度に応じた指導を行う。また、児童が自身の課題をとらえ、課題を選択できるよう、個別に選択可能な課題を用意し取り組ませる。</li> <li>・自分の考えをノートにまとめた上で、友達との対話で別の考えを聞く活動を設定し、理解を広げたり深めたりする楽しさを味わわせる。</li> <li>・中学年において、毎回授業の始めに100マス計算をし、基礎的な計算の習熟、及び集中力を高める。</li> <li>・年3回程度、ベーシックドリルを利用して前学年の学習の習熟度についても確認し、その結果を学年や校内で共有することで、より児童の実態に応じた指導につなげる。</li> </ul>
<b>理科</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の事物や事象に興味関心をもって接する中で、気付きから疑問をもち、予想や検証するための計画を立てる力。</li> <li>・観察や実験を通して、他者と共同しながら、科学的根拠を踏まえて考察する力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で扱う様々な具体物や実物に向き合う時間を十分に確保し、実験や観察の場面を多く設定して自主的で実践的な学習となるようにする。</li> <li>・個人で思考する時間、集団で思考する時間を設定する。</li> <li>・用語を使って自分の考えを促し、知識技能の定着を図る。</li> </ul>
<b>生活</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と触れ合い、手指を使って表現したり、伝え合ったりする力。</li> <li>・集団の中で協力し、学び合う活動を活かし、人や物に積極的に関わる力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の観察、学校や地域の畑、公園、「かに山」等自然と触れ合う機会を設定する。</li> <li>・1年生と2年生がより密に関わることができるよう、学校探検や1年生を迎える会などで、直接関わる機会を増やす。</li> <li>・地域めぐりを1・2学期に目的を変えて複数回行う。</li> </ul>
<b>音楽</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と協働しながら、音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取り、音楽を形づくっている要素を理解する能力と、それを自分なりの表現につなげようとする思考力。</li> <li>・音楽に親しみ、友達と合わせる楽しさを感じ、音楽活動に主体的に取り組む力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気付いたことや感じ取ったことなどについて互いに交流し、音楽の構造について共有したり、自分の考えを深めたりする。</li> <li>・知識や技能を得たり生かしたりしながら音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもち、歌ったり楽器を演奏したり音楽をつくったりする過程の充実を図る。</li> <li>・体で音楽を感じたり表現したりする活動を通し、表現の工夫を深める。</li> <li>・ペア学習やグループ学習等、めあてや児童の実態に合った学習形態を工夫する。</li> </ul>

<p><b>図画工 作</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの思いをためらいなく表現し、表現することに喜びをもつ力。</li> <li>・作品の鑑賞をするなど、お互いの存在や良さを認め合う力。</li> <li>・材料や用具を使い、表し方を工夫して、創造的につくったり表したりする力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対し自分自身の思考で解決できるよう、「試す」「工夫する」「やり直す」活動が十分に保障できる指導計画を立てる。</li> <li>・ICT機器を活用し作業が視覚で分かるようにする。</li> <li>・道具の安全かつ正しい扱い方の指導を反復し定着できるようにする。</li> <li>・よいアイデアを共有し、発想を広げる機会をつくることで造形的創造力を養う。</li> <li>・授業の導入でその時間のねらいを明確に伝え、実演を示して作品のねらいが具体的につかめるようにする。</li> <li>・素材や表現対象などに触れる機会を多く設定し、感覚を通して児童が感性を動かせることができるようにする。</li> </ul>
<p><b>家庭</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生活経験を振り返り、生活をよりよくしようとする工夫を考え、課題を解決する力。</li> <li>・日常生活に必要な基礎的な知識や技能を身に付け、自分の生活に役立てようとする力。</li> <li>・友達との交流を通して、互いのよさや頑張りを認め合い、新たなアイデアを得て、自分の生活に生かす力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入で、自分の生活経験を振り返り、自分自身の課題を見付ける時間をとる。また、終末では、活動を振り返り、家庭で実践できることを考えることで、家庭の一員として強く自覚し、家庭生活に目を向けられるようにする。</li> <li>・日常生活で活用できるものを製作することで、製作意欲を高める。実際に活用することで、喜びと達成感を味わえるようにする。</li> <li>・調理や手縫い、ミシン縫いの技能のポイントを動画や写真などで視覚的に提示することで、自分で確認しながら見直しをもって取り組めるようにする。</li> <li>・意見交流をしたり、授業や家庭で実践したことを振り返ったりする。これらを通して、友達から新たな視点を得たり、自分に合う方法を考えたりできるようにする。</li> </ul>
<p><b>体育</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自身の運動する力に目を向け、生涯を通して運動に親しもうとする力。</li> <li>・健康や体力の保持増進と運動する力の向上に向け、主体的に取り組もうとする力。</li> <li>・児童が自己の運動する力を振り返りながら、それに合った課題を主体的に設定し、解決しようとする力。</li> <li>・友達と教え合ったり、作戦を相談したりして、他者との関わりを楽しむ力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の思いやその運動する力に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わりと関連付けるようにする</li> <li>・ちょこブラ1調布、ダブルダッチに取り組み、授業だけでなく、日常から体力向上に主体的に取り組むことができるようにする。</li> <li>・短縄・ジョギング・長縄旬間を通して、運動に親しむきっかけを創出する。</li> <li>・見直しをもたせたり体の動かし方を細分化したりすることで、自己を振り返りやすくし、めあてを立てやすくする。自己に合っためあてを立て達成感を味わうことで運動することの意欲を高めていく。</li> <li>・体を動かすことを楽しもうとすることを大切にすることで、継続的に取り組みたいと思えるように働き掛けていく。</li> <li>・児童が互いに教え合うために、必要な技能のポイント掲示物やICTを活用する。</li> <li>・他者との関わりを楽しむ力を育むために、グループでのゲームや学び合いなど、他者と関わる機会を設けていく。</li> </ul>
<p><b>外国語</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語と外国語との違いを理解し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる力。</li> <li>・コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力。</li> <li>・他者に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「定着」を目標に毎時間指導に当たる。活動の切り替え時にはチャンツを流し、外国語に触れる時間を多くする。</li> <li>・インプット・アウトプットの割合を6:4とし、児童が他者に配慮しながらコミュニケーションを図ることができるようにする。</li> <li>・「話す」活動では、できるだけ既習表現を活用するように声を掛け、積み重ねる意識をもたせる。「書く」時には、時間を決めて書かせたりすることでスムーズな授業を展開する。</li> <li>・コミュニケーションを図る活動の際には、中間指導を行い、更に児童が自分の課題を考え、練習する時間を作る。</li> <li>・次の展開への外国語の指示を増やしていくことで、英語で授業を進められるようにする。</li> </ul>
<p><b>道徳科</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的諸価値について理解し、自己を見つめる力。</li> <li>・物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める力。</li> <li>・他者との関わりや集団の中での自分の在り方を考え、よりよい人間関係を築く力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間の終わりに自分の考えや心の変化を書き溜め、定期的に読み返して過去の自分と比較することで、道徳的価値を自分自身の課題として深く見つめ直す習慣を確立する。</li> <li>・教材の登場人物とは異なる立場に立って考える役割演技や議論を積極的に取り入れ、自分とは違う視点に触れることで、一つの見方に捉われない生き方を模索する判断力を養う。</li> <li>・善い行動や感謝の言葉を日常的に伝え合い、互いの貢献を認め合う学級風土を構築することで、集団の中での自分の役割を自覚し、周囲の人々と協力してより良い関係を築こうとする実践力を高める。</li> </ul>
<p><b>外国語 活動</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語を話すことを楽しみ、他者に配慮しながらコミュニケーションを図る力。</li> <li>・「聞く」「話す」のコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を高める力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「十分に英語を耳になじませること」を目標に毎時間指導に当たる。そのために、活動の切り替え時にチャンツを流し、英語に触れる時間を多くする。</li> <li>・掲示物は精選し、黒板に貼るようする。</li> <li>・モデルを示す、練習する、気持ちや考えを伝えることを意識した授業をし、自己表現する言語活動を取り入れる。</li> </ul>